

令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	33	学校名	清水南高等学校・同中等部	記載者	水田 忍美
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	新学習指導要領に基づいた授業改善を進め、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%	A	A	今後も、継続して取り組んで欲しい。
		授業公開週間実施回数：年間3回 外部講師による講演満足度：80%	A	B	研修を立案する時に、研修の目的に合致した講師の選定をし、目標の設定を明確に行って欲しい。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%	B	B	なぜ学習しなければならないのかを生徒が納得するように伝えていく必要がある。
		校内研修での学びを生かして授業改善に取り組んだ教員の割合：80%	A	A	今後も、取り組んで欲しい。
イ	中高6年間を見通したキャリア教育の充実を図る。	「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%	A	A	今後も、継続して取り組んで欲しい。
		講演、講義等の回数：年間合計10回	A	A	計画的な実施と内容の充実に努めて欲しい。
		大学、企業等の訪問・見学等回数：年間合計10回	A	A	計画的な実施と内容の充実に努めて欲しい。
ウ	自己有用感を高めるとともに、教育相談体制を充実させ、心身ともに健康な生徒を育成する。	「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%	A	A	他者との関わり合いの中で、生徒の自己有用感が高まる活動をより進めて欲しい。
		「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%	A	A	挨拶の必要性を生徒に理解させた上で、場を提供して欲しい。先生方から積極的に挨拶できるといい。
		教員参加による交通安全街頭指導の実施：年間10回	B	B	年間の目標でなく、学期に1～2回にしてはいかがか。
		長期欠席生徒(年間欠席30日以上)及び転退学者：0人	D	C	学校は生徒、保護者への対応をしているので、Dではない。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%	A	A	昨年度の値より改善していて、よかった。
		「保健だより」の発行：年間12回	A	A	問題なし。
エ	学校行事、部活動等の充実を図るとともに、アカデミック	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上	A	A	今後も、継続して取り組んで欲しい。
		読書活動の生徒充実度：70% 図書館貸出数：4000冊以上	A	A	ビブリオバトルが読書活動の充実に結びつくよう取り組んで欲しい。

様式第5号

	ク・ハイスクールの取組を推進し、豊かな感性や表現力を育てる。	「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：70%	A	A	次年度は目標を80%としてはいかがか。
		研修旅行で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上	A	A	問題なし。
		「表現」で「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%	B	A	生徒が身に付けた力を発揮する場面を多く設定して行って欲しい。
		芸術鑑賞、校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計10回	A	A	芸術科の生徒にとっては、発表する機会はあればあるほどいい。
		美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計10回	A	A	芸術科の生徒にとっては、発表する機会はあればあるほどいい。
オ	郷土文化への理解を深めるとともに、地域社会や産学官の連携を推進する。	奉仕活動や社会貢献活動に参加したと答える生徒の割合：60%以上	C	C	目標は、生徒が地域社会等と連携して、学ぶことであるならば、探究活動や保育実習での活動も含まれる。成果目標の設定の視点を変えてみてはいかがか。
		海外交流行事等実施：1回以上	A	A	問題なし。
		実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率：中等部50%、高校45%	C	C	Jアラートの対応訓練等も行ってはいかがか。地域防災への参加等は、学校の教育活動の範囲を再考する必要がある。
		土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	A	A	Xなどを有効に使って、今後も継続して行って欲しい。
		平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底	A	A	問題なし。
カ	安心・安全な教育環境の整備、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回	A	A	問題なし。
		講話や研修等の取組：月1回以上	A	A	今後も継続して行って欲しい。
		夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月平均45時間以上の教職員数を前年度より減少させる	A	A	今後も継続して行って欲しい。
		職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了	A	A	今後も継続して行って欲しい。